

E2 テストツールミニパネル ～ 食べるツール:辛そうで辛い テスト自動化～

1/25(火) 13:30～15:10(100分)

第5会場

今年のテーマ

- テストツールを提供するベンダやリセラとツールを使うユーザとで、テストツールについて熱い議論を繰り広げます。
 - テストツールがエンジニアに本当に有益なのか？
 - 日本でテストツールが浸透しない理由はなぜ？

昨年の振り返り

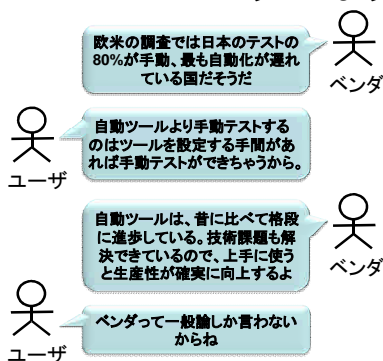
- JaSST'10 Tokyo で「テスト会社とツールベンダの微妙な関係」ミニパネル実施
 - ⇒ 顧客に最適解を提案できるようにしなければならない
 - ⇒ 両者とも垣根を超えて、技術向上しなければならない

現場でもっとテストツールを有効活用しなければならない

テストツールWG設立

- 2010/11/16 NPO法人ASTER主催で、ツールWGキックオフミーティング開催
- 今後の方向性
 1. テストツール普及のための啓蒙・教育
 2. テスト会社との協業推進
 3. 経営陣へのアピール(省庁、規格等)
 4. マーケット情報の共有

テストツールってどうでしょう？



今日の進め方

- ベンダーリセラーの代表2名とツールユーザの代表2名にパネリストになっていただきます
 - お互いの立場で、お互いの良いところ悪いところを言いあってください
- 会場とインタラクティブに進めます
 - 皆さんに3色の札(赤、青、黄)で回答してもらいます

パネリスト モデレータ の紹介

長沢 智治

@tomohn 

マイクロソフト株式会社
エバンジェリスト 兼 シニア プロダクト マネージャー

Agile Day 主宰
E-AGILITY 協議会 準備委員
アジャイル開発品質研究会
日本 XP ユーザグループ スタッフ



略歴:

- 大規模オープンパッケージの設計～開発～導入支援～保守のライフサイクルを経験
- 10年以上の開発ライフサイクルに関するコンサルティング、ツール導入支援を経験
- Rational, Borland, Microsoft の開発支援ツールを熟知
- 講演、記事多数
 - 4年連続 Microsoft Tech・Ed・Tech・Days で講師
 - イノベーションスプリント 2011 モデレータ
 - 2/17 デブサミ 2011 「これからの ALM」で登壇予定

パネル ディスカッションに臨むにあたって:

- 製品担当ではなく、エバンジェリストとして。
- 10年以上のツールとかかわってきた経験で。
- 特定の領域ではなく テスト全域/アプリケーション ライフサイクル全領域の視点で。

浅野 義雄

富士設備工業(株) 電子機器事業部



- 組み込みシステム開発ツール業界に15年以上の経験。現在富士設備にて海外で先行する各種開発ツール・手法の国内導入支援を行っている。

高信頼性、スタンダード認証支援テストツールのベンダー

- LDRA(英) ソースコードをベースにしたテスト自動化支援
 - 静的解析～動的テスト、カバレッジ解析まで一貫して自動化
 - テストドライバー、テストケースの自動生成
 - 要件～テスト結果までのトレーサビリティ取得



- T-VEC(米) 仕様・設計モデルを形式検証+テストベクタ自動生成

本パネルへ

先進的な顧客と共に成長してきたツールを活用することで、それら賢人のノウハウを知り独自の技術力へと昇華させる。武運や茶道に守・破・離という言葉がありますが、(守)ツールに習い、(破)創意工夫して、(離)高度に発展させることができる。良いツールから習うべきことがあるということです。

ツールから学ぶ賢人の知恵 <http://www.fuji-setsu.co.jp/event/et2010.html>

榎 信之

ENdoSnipe

■ 所属

- ▶ エスエムジー株式会社
(<http://www.smg.co.jp>)



■ 主な仕事

- ▶ 大規模集中監視ソフトウェアの開発現場で開発とマネジメントに従事
- ▶ 自社開発フレームワークと「見える化」製品の開発マネジメント

■ 本パネルにかける意気込み

- ▶ 開発しているシステムの停止が、社会インフラの停止につながるため、品質の作りこみとテストに注力してきました。
- ▶ テストツールによる自動化と品質向上には取り組んでいますが、効果への疑問、導入障壁、時間、コスト、ノウハウ不足などの問題にぶつかり満足する成果を出せていません。
- ▶ 今日、ソフトウェア開発者として思いをぶつけたいと思っています。

SMG

Copyright © SMG Co., Ltd. All Rights reserved.

松本 晋祐(まつき しんすけ) @snsk

株式会社 ACCESS (!TOOL Vendor/Reseller)

ASTER/JaSST 東京実行委員/ToolWG

ATEC(Androidテスト部)

テストオペレータ4年、テストリーダー/QA マネージャ5年
現場へのツールの導入支援や試用、開発経験を経てASTER ToolWGへ参画

語らせると長いツールはBTS
作るの好きなツールはFuzzer、通信プロトコルテスト用の擬似サーバ
システムをテストするシステム、を作ったり触ったりするのが大好き

今回はソフトウェアベンダとして現在のテストツールを取り巻くさまざまな環境に斬り込んでいきたいと思っています。
よろしくお願いたします。

湯本 剛

Consultant at HP Japan



- ソフトウェアテスト現場で10年ほど経験を積んだ後、テストプロセス改善のコンサルティング、教育に約7年ほど従事
- 2010年8月よりHP Softwareのテストツール導入支援コンサルタントに転職し、主に**テスト管理ツール、キャプチャリプレイツールの導入支援に従事**

■ 外部活動

- NPO法人ASTER 理事
 - JSTQB 技術委員
 - ISTQB CTAL WGメンバー
 - JaSST 東京実行委員
- ISO/IEC JTC1 SC7 WG26 エキスパート
- 日科技連SQIPステアリング委員



■ 書籍、Web記事や雑誌への執筆や翻訳

- BTOクラブで連載中 (<http://btoclub.jp/news/report/expart/m/index.html>)
- Twitter <http://twitter.com/yumotsuyo>

■ 本パネルにかける意気込み

- いままで10年以上テストツールのユーザでしたが、去年から一転し、テストツールのベンダーになりました。両方の気持ちがわかる公平な立場でモデレートします！！



まず会場に質問！

皆さんの立場は？

- 「エンドユーザ、メーカー」
 - (開発したソフトウェアを使う立場)
- 「テストツールベンダー」
 - (ソフトウェア開発を効率良くする立場)
- ● 「SI、ソフトハウス」
 - (ソフトウェアを開発する立場)



テストをどれくらいやっています？

- 適切
- やりすぎ
- ● 足りないと思っている



テストツールってどの程度活用していますか？

- テストツールをバリバリ駆使している
- ● 使おうとしているが上手くいっていない
- 必要ない



その他の会場への質問

- テストツールをどう使いますか？
 - 対処療法的に使う 赤
 - ● 予防的に使う 青
 - わからない 黄色
- ツール活用を阻む要因として、「効率化により人月投入が減りビジネスが成り立たない」ことが大きいと思いますか？
 - 思う 赤
 - ● 思わない 青
 - わからない 黄色

今日のお題

エンジニアにとってテストツールは 必要なのか？(1)

- テストツールの利用率が低いなどと言う状況もあるが、果たして本当にツールは必要ですか？
 - ベンダー側
 - 当然必要。掃除や洗濯に掃除機や洗濯機を使うのと一緒。
 - 要らない...と言うのは嘘で(笑)。皆さんが必要なら要る。ゴールが何なのかによってツールを使うべきが変わる。
 - USの資料は機能の紹介が多いがそれだけでは日本では使えない。
 - ユーザ側
 - 何をすべきか？が先。ベンダーは「使う」から入ることが多く、何をすべきかの説明が抜けている。
 - 現場では「使いたい」人と「使いたくない」人で二極化している。
 - 案件によってツールが違ふとその度ツールを覚える工数がかかりすぎてしまい、使いこなすまでいけない。

エンジニアにとってテストツールは 必要なのか？(2)

- テストツールの利用率が低いなどと言う状況もあるが、果たして本当にテストツールは必要ですか？
 - ベンダー側
 - ツールデモを見た直後がユーザにとってツールを活用したいと思っているピークでその後評価版になると熱が冷めていく傾向がある。
 - 現場にて試行錯誤をしてもらえれば支援もやりやすいが、現実には、評価版のインストールさえも忙しくてやっていない。
 - ユーザ側
 - 評価版を動かす用にすることが難しいところで一番支援してほしい。ツールの機能が自分たちの要求にフィットするだけでなく、インストールなどの本来見たいところではない部分でコストがかかりすぎる(時間、お金)となかなかその後に進めない。
 - デモが綺麗でも、ツールを自身のプロジェクトに適用した時に上手いかわないとやる気が出ない。

エンジニアにとってテストツールは 必要なのか？(3)

- テストツールの利用率が低いなどと言う状況もあるが、果たして本当に必要ですか？
 - 会場
 - エンプラ系の開発環境では、現実的にツールが上手く動かない事が多すぎる。
 - ベンダー側
 - ツールベンダとしても付き合える部分と付き合えない部分がある(開発スタイルのコンサル領域に入ることもあるが、コンサルティンクを継続して行うリソースがツールベンダにはないことも多い)。現場自身でも活用方法を考えてほしい。
 - ユーザ側
 - ツール導入というのは、コンサルを入れてまでやることなのかと思ってしまう。
 - ベンダー側
 - 組み込みでも派生開発など問題が多い。ツールが上手く使えない場合も多いので、コンサルタントにツールを使えるようになってもらい、現場の支援の一環として使ってもらっている。

何故日本のソフトウェア業界にテ ストツールは浸透しないのか(1)

- 日本ではツールの利用率が諸外国より低いという状況があります。何故でしょうか？
 - ユーザ側
 - ツールを学ぶ場が少なすぎて学べない。
 - ツールが想定するプロセスと社内のプロセスが噛み合わなくて上手く動かない。ツールを推進する方がそこを推し進めていかないと変わらない。
 - ツールを活用する計画を立てるのが難しい。エンジニアのスキルを上げないといけない。
 - ツールを活用できることがキャリアの中でどの位置づけになるのかわからない。なので、新人にやらせる。そうすると早くツールを使っているところから抜けたくなってしまふ。
 - 会場
 - 学ぶ意欲がある人はほとんどやる。意欲のない人はやらない。意欲のない人をどうするかが問題。
 - ベンダー側
 - キャリアとしては、アメリカは「テスト開発者」と言うコードをかけるテスト屋さんがいる。

何故日本のソフトウェア業界にテ ストツールは浸透しないのか(2)

- 日本ではツールの利用率が諸外国より低いという状況があります。何故でしょうか？
 - ベンダー側
 - 仕事のプロセスを変えるのを嫌う。ただ、日本だけの問題なのかは疑問。
 - MSではテストツールではなくテスト機能を提供している(としてテスト機能を全体の一部分として提供)。テストだけでなく開発含めてトータルでツールの活用を考えるべきである。
 - テストツールを仕事のために「使いこなす」ようにすべき。
 - 「使いこなす」とはどういうことでしょうか？
 - ユーザ側
 - 「ツールを使いこなす=ツールを使っていることを意識しない状態」。たとえばコンパイラなんかは意識せず使う。そうなるべき。
 - テストツールを使いこなすことは、上流でのバグまで取れるようにする。バグのナレッジ化をする(バグの再発予防につながる)こと。
 - 会場
 - ユーザにもっと「使う目的」をはっきり伝えないと導入が定着へとながらぬ。
 - 負荷テストツールや脆弱性診断ツールは目的がわかりやすいので導入しやすい。たとえば、機能テストツールは、無くても出て来ちゃう事が多いため目的がぼやけてしまっているかなかなかうまくいかない。

今後目指す方向性は？

- ベンダー側
 - 失敗しながら経験を積んで上手くなっていければよいのではないか。道具から入って、結果的に本物になっていければよいと思う。
 - ベンダからもっと有益な情報が出せるのではないかと思った。
 - ツールと言うより、開発あるべき姿をユーザとベンダが一緒に考えていければ良だろう。
- ユーザ側
 - 「ツールを上手く使いこなせた」と言えるようになっていくためにいろいろしていかなければならないと思った
 - 導入を阻むのは人月ビジネスが原因なのではないか？ ツールを入れると人の投入がでなくなるというのが本質的な問題であり、その変化が必要。